

エイム電子株式会社

エコアクション21環境活動レポート

2022年10月 ~ 2023年9月



発行日2023年10月13日

～目次～

■組織の概要	1
■対象範囲、レポートの対象期間及び発行日	1
■環境方針	2
■環境管理実施体制	3
■環境経営目標 & 環境経営計画	4
■環境経営目標の実績	6
■取組結果とその評価、次年度の取組内容	7
■環境関連法規制の遵守状況	8
■代表者による全体評価と見直し	8

AIM
AIM ELECTRONICS

1.組織の概要

1)事業所名及び代表者名

エイム電子株式会社 代表取締役 中山栄志

2)所在地

本 社 : 〒252-0327 神奈川県相模原市南区磯部1353
本社別棟 : 〒252-0327 神奈川県相模原市南区磯部1354-4
物流センター: 〒252-0336 神奈川県相模原市南区当麻1107-20
R&Dセンター: 〒252-0327 神奈川県相模原市南区磯部1335-1

3)環境管理者氏名及び担当者連絡先

環境管理責任者: 経理部長 松島広晃
担 当 者 : EA21事務局 西田
連 絡 先 : 電話 046-253-9881
FAX 046-252-7572

4)事業の活動内容

認証・登録対象活動
ネットワーク用、AV用ケーブル及び周辺機器の製造・輸入販売

5)事業の規模

活動規模	単 位	R2年度	R3年度	R4年度
売上	百万円	1,210	1,330	1,290
従業員	人	72	74	75
床面積	m ²	830	830	1,178

2.対象範囲、レポートの対象期間及び発行日

1)認証・登録範囲

■段階的認証
本社・本社別棟・R&Dセンター、物流センター

2)レポートの対象期間及び発行日

期 間: 令和4年10月1日～令和5年9月30日

発行日: 令和5年10月13日

3.エイム電子環境方針

[理念]

当社は経営理念に「地球環境と社会に貢献する」を掲げ、地球環境問題への取り組みが企業経営における重要課題の一つであると認識し、地球環境に配慮した事業活動に積極的に取り組んで参ります。

[方針]

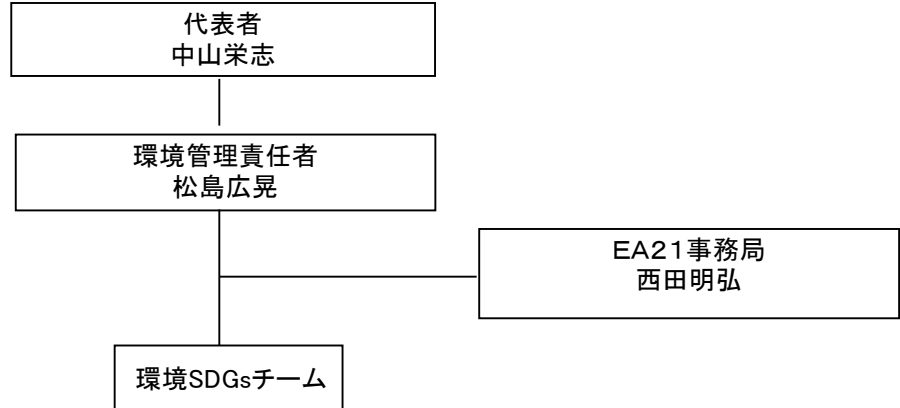
- 1) 事業活動の全域で省エネルギー、廃棄物削減、節水の推進に努めます。
- 2) 環境保全に配慮した製品の製造及び資材の購入に努めます。
- 3) 環境マネジメントシステムの継続的な維持向上に努めます。
- 4) 当社の活動に係わる環境関連法規、その他の要求事項を遵守します。
- 5) オフィス用品のグリーン購入を推進します。
- 6) 環境方針を全従業員へ周知させるとともに環境教育及び啓発に努めます。

平成28年10月1日
エイム電子株式会社
代表取締役
中山栄志

4. 環境管理実施体制

作成 2018/10/19

承認	作成
松島	西田



	責任および権限
代表取締役社長	1. 環境管理責任者の任命 2. 経営における課題とチャンスの明確化. 3. 環境方針の制定 4. 環境経営システムの実施および管理に必要な資源の準備 5. 環境経営システムの取り組み状況の評価、見直し、必要な指示を行う。
環境管理責任者	1. 環境経営システムの構築、維持。 2. 社長への環境経営システムの実施状況報告 3. 環境経営システムの実施、維持、継続的改善を行う 4. それぞれの業務・役割に応じ、必要な教育訓練を適切に計画・実施 5. 環境関連文書及び記録の作成・整理
事務局	1. 環境関連データの集計・管理、社内への情報提供 2. 環境管理責任者を補佐しEA21の取組みを推進する 3. 対外連絡窓口
チームメンバー	1. 環境目標達成のために1年間活動を行い、成果を報告する。 2. 環境上の緊急事態への準備及び対応
従業員	1. 環境方針の理解と環境への取り組みの重要性を自覚。 2. 決められたことを守り、自主的・積極的に環境活動へ参加。

(回覧ルート)

社長→環境管理責任者

改版履歴

版数	改定理由	改定月日	承認	作成者
1.1	フロア別責任者制からチーム制に移行	2011.10.1	社長	松島
1.2	事務局の責任および権限を追加	2012.11.1	社長	松島
1.3	チーム構成を変更	2015.10.1	社長	松島
1.4	代表者を変更、チーム構成を変更	2016.10.1	社長	松島
1.5	EA21事務局担当者を変更	2017.10.1	社長	松島
1.6	チーム構成を変更	2022.10.1	社長	松島

5. 環境経営目標 6. 環境経営計画

項目	R3年度	R4年度		R5年度	R6年度	R7年度	環境経営計画
	実績 (基準値)	目標	実績値	目標	目標	目標	施策
二酸化炭素排出量削減(kg-CO2)	37,799	6,790	7,479	7,000	6,965	6,930	■各拠点 電力削減 ・クールビズの励行、卓上ファンの配布 ・ウォームビズの励行、足温器の配布 ・エアコンの定期清掃による効率アップ ・待機電力カットの強化 ・省エネ啓蒙コラムのメール配信 ・電力使用量推移の掲示 ・エアコン温度設定の節電メッセージ表示 ・エアコン消し忘れタイマーの設定 ■ガソリン燃費削減 ・ハイブリッド車両 優先的利用の周知 ・運転時の排気ガス削減方法を社内に告知 R4年度初に、電力契約を非化石証書付きの契約へ変更し、CO2排出量を大幅に削減(R3年度比で-80%) また、R4年度から稼働のR&Dセンターにおいても太陽光発電機能を搭載(全社消費電力の太陽光発電割合が、R3年度の4.9%に対し、R4年度は10.1%へ向上)
前年比削減率(%)	-6.6%	-82.0%	-80.2%	-6.8%	-0.5%	-0.5%	
本社電力(kwh)	44,609	44,163	40,213	40,000	39,800	39,601	
前年比削減率(%)	5.9%	-1.0%	-10.9%	-0.5%	-0.5%	-0.5%	
物流C電力(kwh)	41,705	41,288	37,199	37,000	36,815	36,631	
前年比削減率(%)	17.8%	-1.0%	-12.1%	-0.5%	-0.5%	-0.5%	
本社別棟電力(kwh)	11,505	11,390	8,760	8,700	8,657	8,613	
前年比削減率(%)	2.5%	-1.0%	-31.3%	-0.7%	-0.5%	-0.5%	
R&Dセンター電力(kwh)	-	-	9,544	9,400	9,353	9,306	
前年比削減率(%)	-	-	-	-1.5%	-0.5%	-0.5%	
化石燃料							
ガソリン燃費(km/ℓ)	15.99	16.31	15.97	16.00	16.16	16.32	
前年比向上率(%)	4.9%	2.0%	-0.1%	0.2%	1.0%	1.0%	
排水量削減(m ³ /人)	5.03	5.01	5.41	5.20	5.15	5.10	■排水量削減 ・節水ポスターの見直し ・社内へ節水啓蒙のコラムをメール配信
前年比削減率(%)	-7.2%	-0.3%	7.8%	-4.0%	-1.0%	-1.0%	
コピー紙購入量削減(kg)	769	723	710	680	677	673	■コピー紙購入量削減 ・裏紙利用の促進、ルール再確認 ・社内書類のペーパーレス、オンライン化促進
前年比削減率(%)	8.0%	-6.0%	-7.7%	-4.4%	-0.5%	-0.5%	
一般廃棄物排出量削減(kg)	4,573	4,527	4,402	4,300	4,279	4,257	■一般廃棄物排出量削減 ・一般ゴミの分別の徹底 ・廃棄品の定期処理
前年比削減率(%)	-3.3%	-1.0%	-3.8%	-2.4%	-0.5%	-0.5%	
産業廃棄物リサイクル率/(H28～)産業廃棄物の削減 産業廃棄物の適正管理	99%	適性管理	99%	99%	99%	99%	■産業廃棄物の適正管理 ・マニフェスト管理票受領、行政への報告、委託契約書の締結、排出量の把握
環境に配慮した製品作り 及び資材の購入	RoHS2比率 64%	RoHS2比率 67%	RoHS2比率 70%	RoHS2比率 75%	RoHS2比率 80%	RoHS2比率 84%	■環境に配慮した製品作り及び資材の購入 ・顧客要望を中心に、RoHS2指令への対応を推進 ・RoHS2非対応、不明在庫品は順次入替え
防災対策	実施	防災・災害 後 対策強化	実施	防災・災害 後 対策強化	防災・災害 後 対策強化	防災・災害 後 対策強化	■防災対策 ・防災グッズ/非常食・水の点検、充実化 ・避難訓練の実施

- ※ 化学物質の使用無し。
- ※ CO2排出係数は「東京電力=0.441」を使用。
- ※ 一部(東京電力分を除き)、非化石証書付き電力を採用
- ※ 表中の電力は購入量を記載。別に太陽光発電分として、10,765kWhを全社で使用
- ※ リサイクル率は重量計測で排出する産業廃棄物で計算します。(99%以上が該当)
- ※ 産廃の適性管理=産業廃棄物管理票交付、管理及び行政への報告、
産業廃棄物委託契約書の締結、産業廃棄物排出量(リサイクル量)の把握

7.環境目標の実績

今年度の環境保全活動が終了し、社長と環境管理責任者が環境への取組結果の評価を行った。
評価結果は次の通りである。

No.	推進項目	単位	責任者	年度目標	年度実績	評価
1	二酸化炭素排出量削減	kgCO2	松島	6,790	7,479	×
1-①	二酸化炭素排出量削減 本社電力	kwh	西田	44,163	40,213	○
1-②	二酸化炭素排出量削減 物流C電力	kwh	西田	41,288	37,199	○
1-③	二酸化炭素排出量削減 本社別棟電力	kwh	西田	11,390	8,760	○
1-④	二酸化炭素排出量削減 R&Dセンター電力	kwh	西田	-	9,544	-
1-⑤	二酸化炭素排出量削減 ガソリン燃費	km/ℓ	西田	16.31	15.97	×
2	排水量削減	m3/人	西田	5.01	5.41	×
3	コピー紙購入量削減	kg	西田	723	710	○
4	一般廃棄物排出量削減	kg	西田	4,527	4,402	○
5	産業廃棄物リサイクル率 産業廃棄物の削減/適正管理		西田	適性管理	99%	○
6	環境に配慮した製品作り 及び資材の購入		西田	RoHS2比率 67%	RoHS2比率 70%	○
7	防災対策		元木	防災・災害後 対策強化	実施	○

8. 環境活動計画の取組結果とその評価、次年度の取組内容

【電力使用量】

今期から増えたR&Dセンターを除いた既存拠点分で比較すると、昨年比12.0%減となった。従来の省エネ活動に加えて電気代高騰に伴う会社負担増を具体的に明示する等により会社全体の省エネ意識向上を図る事が出来た。

また、R4年度より非化石証書付きの電力契約切替を行い、CO2排出量を大幅に削減。新社屋に太陽光発電も搭載し、全社消費電力の内の太陽光発電割合を増やした。

●設備面で、今以上の電力削減を望む事は困難。これまで以上に電気使用量の推移をわかりやすく明示する等、省エネへの啓蒙を引き続き実施する

【ガソリン燃費】

社有車のガソリン燃費は前期よりも若干悪化もほぼ変わらず。

ハイブリッド車とガソリン車があり、使用割合も前期と大きく変わらなかったため数値も同様となった。

●来期途中に、ハイブリッド車を入替え予定の為、そのタイミングで極力ハイブリッド車を使用する様に社内呼び掛けを行う

【排水量】

省エネコラム等による啓蒙のみに留まり、排水量は昨年比7.8%増となってしまった。

●来期以降も、感染予防の手洗いうがいの徹底は継続が必要だが、蛇口のヘッド交換等が出来ていない箇所もあるので、設備面の検討を進める

【コピー紙購入量】

エコアクション対応チームとして具体的な対策や啓蒙の施策を実施は出来なかったが運用のオンライン化や裏紙活用を進めた結果、昨年比7.7%減となった。

●来期は、電子帳簿保存法への対応もスタートするので啓蒙活動とあわせて更なる削減を目指す

【一般廃棄物排出量】

昨年比3.8%減ではあるが、環境SDGsという大枠の中で、ゴミ問題に対する啓蒙したのみで具体的な排出量削減等の取組みは出来なかった。

●社内アンケートにてゴミ問題についての社内の認知度や興味関心度合いがあまり高くない事がわかったので、環境への影響等、ゴミ問題への会社全体のリテラシー向上を図る

【産業廃棄物リサイクル率】

当社の産業廃棄物は再生可能品は総て分別し、リサイクルしている。

●今後も分別の徹底を続けます。

【環境に配慮した製品作り】

2019年7月のRoHS2指令の施行に伴い、対応製品への切替を順次実施。

●在庫品の内、70%がRoHS2対応へ切替済。

来期は環境調査チームを立ち上げ、RoHS2対応製品への切替を更に推進していく。

【防災対策】

計画通りに防災対策を進めることが出来た。防災グッズの棚卸、新規購入等も実施。

●有事に備え、更に防災対策の充実を図りたい。

○代表者の前期指摘事項に対する取組について

環境SDGsの活動として、環境問題に対して従業員一人一人が考えられる下地づくりを進めてほしい
⇒環境SDGsチームより、複数回のコラム／情報配信や、フードバンク、アルミ缶回収等の施策を実施
⇒従業員の環境問題やSDGsについての関心度合い向上に一定の成果があったが
施策が不足していた部分も浮き彫りになった(ゴミ削減やリサイクル)ので、来期課題とする

※SDGsへの一環として、社内でアルミ缶を回収(12.7kg)し、車椅子作成の原料とする活動に参加をしています。

9.環境関連法規制の遵守状況

内 容	過去3年から現在までの結果
遵守状況の確認 及び評価結果 法律違反の有無	環境関連法規等の遵守状況及び違反、訴訟等の有無については、受審事業者に適用される主な環境関連法規等の一覧及びそれらの遵守状況を確認した結果として、環境関連法規への違反はありません。なお、関係当局より違反等の指摘はありません。
訴訟の有無	なし

適用環境関連法規等	適用される事項 (施設、物質、事業活動等)	確認	確認日
廃棄物処理法	一般廃棄物の適正処理、産業廃棄物 (金属クズ、廃プラ)マニフェストの交付	○	2023/10/1
容器包装リサイクル法	容器包装廃棄物の適正処理	○	2023/10/1
家電リサイクル法	特定家庭用機器の適正処理	○	2023/10/1
小型家電リサイクル法	使用済み小型電子機器の適正処理	○	2023/10/1
フロン排出抑制法	第一種特定製品の点検、管理 冷媒用フロンの適正回収、破壊の措置	○	2023/10/1

10.代表者による評価と見直し

環境目標の達成状況について

今期から新拠点(R&Dセンター)が増えてはいるが、電力の総排出(購入)量は大きく変わっておらず、その点は良い結果と感じている。

一方で、一人当たりの排水量が大きく増えている点について、節水への取り組みが必要なのは勿論だが、期中で人数の増減がある事から正確な算出になっていない様なので、来期以降の見直しが必要。

来期への取り組みについて

排水量の算出にあたっては、人数換算ではなく、例えば総労働時間を用いて換算する等で、過去との比較がブレなく出来ると思うので試してみてほしい。

来期は車両入替もあるなので、よりハイブリッド車の使用を推進することとその他、省エネに関する啓蒙も引き続き取り組んでもらいたい。

また、これまでCo2排出量の削減を長く進めてきたが、そろそろ排出削減ではなくCo2吸収(例えば植林)の取り組みによって、カーボンニュートラルへの一歩を踏み出す時期にきている。
具体的な取り組みを来期は検討してほしい。

2023年10月12日
エム電子株式会社
代表取締役 中山栄志